

マネーサプライ関連統計および銀行券発行高の季節調整法の変更について

日本銀行では、マネーサプライ関連統計（ M_1 、 $M_2 + CD$ 、広義流動性、マネタリーベース）および銀行券発行高に関する季節調整法を、9月計数（10月公表）より、X-12-ARIMA（これまでX-11）に変更することとした。なお、遡及計数については『経済統計月報』平成8年10月号

に掲載する予定。

—X-12-ARIMAの詳細については『日本銀行月報』1996年5月号「季節調整法について」を参照。

これらの指標にX-12-ARIMAを適用する際に用いたモデルは以下のとおり。

指 標 名	季節ARIMAモデル ^(注1)	レベルシフト	データ始期
M2 + CD 平 残	(3 1 3)(1 1 1) ₁₂	なし	1967年1月
M2 + CD 末 残	(3 1 5)(0 1 1) ₁₂ ^(注2)	なし	55年1月
M1 平 残	(3 1 6)(1 1 1) ₁₂	なし	63年1月
M1 末 残	(2 1 5)(0 1 1) ₁₂	なし	55年1月
広 義 流 動 性 平 残	(3 1 3)(0 1 1) ₁₂	なし	80年1月
マネタリーベース平残準備率調整後	(3 1 2)(0 1 1) ₁₂	1986年11月 ^(注3)	70年1月
マネタリーベース平残準備率調整前	(3 1 6)(0 1 1) ₁₂	86年11月 ^(注3)	70年1月
銀 行 券 発 行 高 平 残	(1 1 2)(0 1 1) ₁₂	なし	55年1月
銀 行 券 発 行 高 末 残	(1 1 0)(1 1 1) ₁₂	なし	55年1月

—各系列とも対数変換を実施。事前調整における異常値の判定基準は 3.3σ 超。また、曜日調整対象となったものはM1末残および銀行券発行高末残の2指標。

—季節調整に用いるデータは基本的に当該データ系列の始期^(注4)から直近の12月（現在は1995年12月）までとし、その後の1年間は季節要素の予測値を用いて季節調整値を作成。

—今回用いたX-12-ARIMAはベータ・バージョン。

- (注) 1. 季節ARIMA (AutoRegressive Integrated Moving Average; 自己回帰和分移動平均) モデルは (p d q) (P D Q)_sと表される。すなわち、前半の括弧内のpはAR過程の次数、dは階差数、qはMA過程の次数を表し、後半の括弧内のPは季節AR過程の次数、Dは季節階差数、Qは季節MA過程の次数を表す。なお、sは季節変動の周期を表すが、ここでは月次統計のため12である。
2. ただし、定数項を含む。
3. 天皇陛下御在位60年記念十万円金貨の発行によるレベルシフト。
4. ただし、銀行券発行高については、M2+CD末残と同じ1955年1月をデータ始期とする。

(調査統計局・発券局)